

令和6年度社会科 授業改善推進プラン

大田区立糀谷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・2年生は、地理・歴史共に基礎、活用共に目標値を下回っている。しかし例えば建武の新政に対する人々の不満について資料をもとに考察する問題については、デジタル教科書を用い画像や資料を活用し考えさせる授業展開を進めたこともあり、目標値を達成した。今後の授業では、語句の意味を覚えるだけではなく、多様な資料を活用しながら、生徒たちが既習済みの内容と結びつけられるようにしていきたい。
- ・3年生は、地理・歴史共に基礎、活用共に目標値を下回っている。しかし九州地方の工業の特色について資料をもとに判断する問題や、日本の工業・農業の特色について答える問題について、目標値を上回ることができた。引き続き語句の習得のみならず、そうした事象が起こる原因や影響等を考えることで、学習内容の理解を深めていく。

(2) 課題

- ・2年生は、基礎・活用どちらも目標値を下回っているが、特に資料の読み取りに関する問題での正答率が低かった。基礎知識が高いわけではないので、中学1年の時に学習した基礎的な事項を復習すると共に、その知識を資料と組み合わせて理解させることが課題である。
- ・3年生は、日本の資源・エネルギーにかかわる課題についての問題や、織田信長の統一事業についての問題など、特に資料を用いて考察する問題で目標値を大きく下回った。語句の理解を確実にすると共に、複数の資料を参照して思考し、問題解決に向けて粘り強く取り組む姿勢を身に付けることが課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	3つの観点全てで目標値を下回っていた。		
第2学年	3つの観点全てで目標値を下回っていた。	3つの観点全てで目標値を下回っていた。 (第1学年時)	
第3学年	3つの観点全てで目標値を下回っていた。	3つの観点全てで目標値を下回っていた。 (第2学年時)	3つの観点全てで目標値を下回っていた。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を5ポイント下回っている。21問中、▼の評価が11問あり、知識の定着はもちろん、資料活用能力が低いことが明白である。	正答率が目標値を9ポイントほど下回っている。7問中、▼の評価が6問あるが、歴史の流れについて考察する問題が目標値を21.4ポ	正答率が目標値を5ポイントほど下回っている。「知識・技能」と重なっている問題が3問、「思考・判断・表現」と重なっている問題が4

る。ただ、その中で日本の政治に関する問題についての理解度が高く、目標値を比較的大きく上回った。	イント下回り特に理解度が低かった。その中で日清・日露戦争についての問題が目標値を達成した。	問ある。全ての問題が目標値を下回っている。
---	---	-----------------------

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が昨年度より下降し、目標値を15.9ポイント下回った。特に世界の諸地域、室町文化に関する問題についての正答率が低い。その中で世界各地の住居について比較的良好に理解していた。	ほとんどの内容で目標値を下回っており、▼の評価となっている。その中で鎌倉時代から室町時代までの歴史の流れについて考察する問題が目標値を上回った他、建武の新政についての問題が目標値と同じであった。	全ての内容で目標値を下回っており、▼の評価になっている。特に東アジアとの交流についての理解をもとに、資料を読み取る問題が目標値を40ポイント以上下回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理分野（日本の諸地域・地域調査の手法）の問題について、正答率が目標値を大きく下回り、全体で18.6ポイント下回った。一方で日本の農業の特色について資料をもとに考察する問題では、目標値を3.2ポイント上回った。	日本の諸地域についての問題で目標値を6ポイントほど、日本の工業の特色についての問題でも5ポイントほど上回った。一方で日本の資源・エネルギーに関わる課題について資料をもとに考える問題で目標値を20ポイントほど下回り、全体としては7ポイント下回った。	日本の工業の特色についての問題で目標値を5ポイントほど、日本の農業の特色について資料を関連付けて考える問題でも3ポイントほど上回った。一方で、日本の資源・エネルギーに関わる課題について資料をもとに考える問題や、地形図を読み取る問題で目標値を大きく下回り、全体として目標値を8.1ポイント下回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「知識」の定着が大幅に不足していることが浮き彫りになった。学習内容の理解を深めると共に、ワークや小テストを用いて基礎学力の定着を図る。	地理でも歴史でも、適切な資料を活用して、解説をさせる反復学習を行うことで、資料の読み方や思考を深める。また記述問題に取り組むことで適切に文章にまとめる力を養う。	タブレットを使用した調べ学習やレポート作成、発表会などを行うことで、生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫する。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
今回の結果から、地理では世	資料の読み取り問題で正答	タブレットやデジタル教材

界の諸地域について、歴史では中世の日本についての問題が目標値を下回っていたので、理解不十分な内容を反復学習によって理解を深めさせる。	率を落としているので、授業中に資料をもとにした読み取り学習を取り入れる。また、資料を読み取って終えるのではなく、なぜそのようなデータになっているのかというところまで考え、理解を深めていく。	を活用した調べ学習を行わせることで、社会的事象に対する興味を深める。また、生徒の身近な生活と結び付けて説明し、関心・意欲を引き出していく。
--	--	---

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理分野の地形図を読み取る問題など、学習した時期から時間が経っている事項の正答率が低かった。折を見て問題演習を取り入れるなど、学習した内容の掘り起こしに努める。	既習事項だけでなく、提示された資料を関連付けて解答するよう促す。またタブレットを活用し意見を交流し、そのことにより思考の広がり・深化を図り、生徒の社会的な見方・考え方を働かせて学習に取り組む。	板書をただノートするだけでなく、グループワークを行う活動を取り入れ、生徒達の主体性を高めていく。